



森林ふれあい情報

国民の森林・国営林

平成22年7月
第15号

中部森林管理局木曽森林環境保全ふれあいセンター
〒399-0001 長野県木曽郡木曽町福島5471-1
TEL:0264(22)2122 FAX:0264(21)3151
E-mail:kiso-fureai@rinya.maff.go.jp

希少植物の 生育状況調査の実施

木曽森林環境保全ふれあいセンターの活動フィールドである城山国有林は、木曽町の中心から1km程の位置にありながら、樹令300年を超える木曽ヒノキやモミ、ツガが生育しており町民の散策の場として利用されています。

また、林内には多様な植物が自生していて、当ふれあいセンターではこれらの植物の保護、育成に努めています。



カタクリの花を数えて

早春に花を咲かせるカタクリも自生していて、今年も生育状況の調査を実施しました。

今年の春は気温の低い日が続き、日照が悪くカタクリ独特の花びらの数は昨年より減っていましたが、株の数は年々増えていることが確認されました。



地域と木曽川下流住民との 交流事業の支援

木曽は、木曽川や愛知用水により、清らかな水の下流域への供給や、保健休養の場を提供するなど、中京圏と密接な関係にあります。

今年も、名古屋城本丸御殿復元事業として「名古屋市民による森づくり」作業が木曽町の町有林で行われ、約200人が五月晴れの5月15日に植樹や除伐に汗を流しました。



植樹する名古屋の小学生

5月18日は、愛知県犬山市の犬山中学校2年生232人がおいしい水を供給している水源の森を守ろうと、赤沢自然休養林内の遊歩道にヒノキのチップ敷や、除伐を行いました。

竹カゴに入れたチップは重く慣れない作業に苦戦していましたが、ふれあいセンターや木曽森林管理署の職員の指導を受け元気に作業を行いました。



森の恵に感謝して

また、長野県西部地震災害復旧事業では災害後26年を経て、緑の復活した濁川地区で「緑のバトン」として、植樹や林地の手入れがボランティアによって行われました。

ふれあいセンターでは唐鍬やノコギリなどの提供や植え方の技術指導などの支援を行いました。



女性子供も参加して

技術専門学校生の林業体験

木材産業が経済の主流である木曽では、木工を主体とする長野県の技術専門学校があり、当ふれあいセンターは、毎年間伐体験実習の指導をしています。

5月13日は4月に入校した生徒45名、職員6名がヒノキ人工林の間伐に汗を流しました。

最初に木曽森林管理署のふれあい係長から作業内容等の説明があり、4班に分かれて実習に移りました。

伐倒作業に先立ち伐倒木周辺の、つるや枯れ枝などの有無、伐倒方向の確認をしてから受け口、追い口の順にノコギリを入れるなど指導者の実演を見て作業を始めました。



伐採方向を確認して

学校では木工という木との関わりはあっても、実際に立木を伐る体験は初めての人ばかりで、かかり木の処理に苦勞する組も見受けられました。

伐倒されたヒノキの香りと、皮を剥いた木肌の美しさに利用のひらめきを感じたのか、学校へ持ち帰る生徒も見られました。

地元高校生による 森林ボランティア等体験学習

5月28日には地元木曽青峰高校一学年239名による赤沢美林見学と森林ボランティアの体験学習がありました。

地域の遺産である木曽ヒノキ林を後世に遺すために林内の歩道にウッドチップを敷いて根の保護を図る班と、「奥千本」と呼ばれるヒノキ林を見学する班で、全員を12班に分け、午前と午後に6班ずつ交代でチップ敷と美林見学をしました。

当ふれあいセンターの職員4人も、美林見学にインストラクターとして案内しました。この経験を基に卒業後多くの生徒が、地元産業や林業に貢献できる仕事に就いてもらえることを期待するものです。



奥千本ヒノキ林木遺伝資源保存林をバックに

樹齢300年の森林づくり

特定非営利活動法人 地球緑化センターでは樹齢300年の森林を作ろうと、赤沢に「ふれあいの森」を設定して平成8年以来、人工林の森林整備をしています。

今年も6月12・13日と関西、関東方面から27名の男女が参加して間伐作業に汗を流しました。

木曽森林管理署と当ふれあいセンターでは二日にわたり現地案内や作業方法などを指導しました。ケガもなく予定した作業を終了して帰路につきました。



慣れない作業でも安全に

城山史跡の森遊歩道整備

城山国有林を活動拠点としている、「城山史跡の森倶楽部」では城山を散策等で訪れる方々に快適・安全に散策を楽しんでいただこうと、遊歩道等の整備作業を実施しています。

4月4日は、11名の会員を集め歩道の整備と、新しく作成した看板を設置しました。

この看板は、NPO等活動拠点整備事業の一環として、城山国有林黒木ヶ沢のモニタリング調査を基に、水生生物の分布状況を表示したもので、黒木ヶ沢が生物多様性に富んでいることが一目にして分かるものです。



看板設置を終えて一息

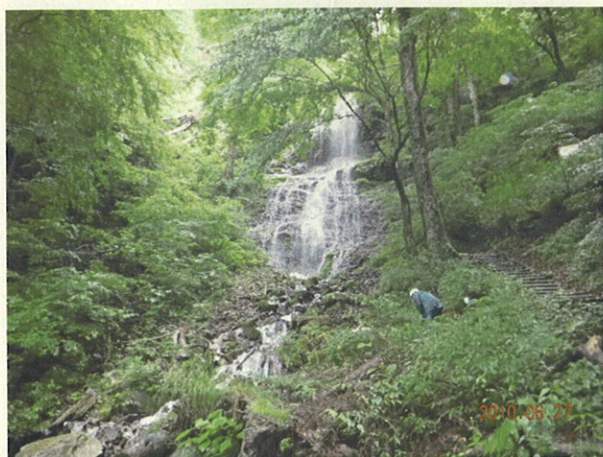
6月27日は雨模様の中、18名の会員が参加して歩道脇の草刈や、道標を覆っている木の枝などを取り除きました。

コースの途中には権現滝という落差25メートルの滝があり、夏の暑い日には滝の冷気を浴びる人気スポットになっています。

当ふれあいセンターでは両日共、鎌等の提供や安全指導の支援を行いました。



権現滝への歩道整備



新メンバーを迎えて

木曽森林環境保全ふれあいセンターは、眞田所長が3月末日をもって定年退職しました。また、高嶋自然再生指導官も4月1日で異動となり、新たに田口所長と小林自然再生指導官を迎え新体制でスタートを切りました。

センターの隣には興禅寺という古刹があり、手入れの行き届いた庭には枝垂れ桜が毎年みごとな花を咲かせ、職員の目を楽しませてくれます。今年は4月の中旬に雪が降るなど、寒い日が続き開花も10日ほど遅れましたが、きれいな花を咲かせてくれました。

本来なら、事務所前の看板をバックにメンバーの紹介をさせていただくところですが、満開の枝垂れ桜をバックに新体制の紹介をさせていただきます。



写真右から田口新所長、藤田指導官
小林新指導官、藤井指導官